

新型コロナウイルス感染症の重症度

新型コロナウイルス感染症の重症度を医療従事者が評価する基準については、国が「新型コロナウイルス感染症診療の手引き」の中で、呼吸の状態や肺炎の有無のみを評価しており、以下のように分類されています。保健所や医療機関では、脱水や基礎疾患など全身状態もあわせて総合的に判断して入院等の決定をしています。

<重症度>

<医療従事者が評価する基準>

軽症

高熱や咽頭痛があっても、呼吸困難や肺炎がなければ軽症と判断されます。

発熱

のどの痛み



咳
(呼吸困難なし)



肺炎の所見なし



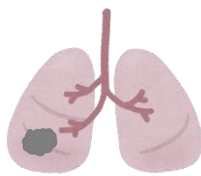
酸素飽和度

$\geq 96\%$

中等症Ⅰ



呼吸困難



肺炎の所見あり



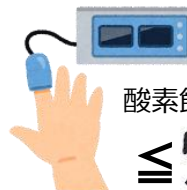
酸素飽和度

93~96%

中等症Ⅱ



酸素投与が必要



酸素飽和度

$\leq 93\%$

重症



集中治療室に入室



人工呼吸器が必要

- 呼吸器症状なし 又は咳のみで呼吸困難なし
- 肺炎の所見なし
- 酸素飽和度 96%以上

- 呼吸困難・肺炎の所見あり
- 酸素飽和度 93~96%

- 酸素投与必要
- 酸素飽和度 93%以下

- 集中治療室 又は人工呼吸器が必要

「新型コロナウイルス感染症診療の手引き第 8.0 版」より

<保健所より> ~上記の基準について補足~

- 「医療従事者が評価する基準」における「軽症」は市民の方がイメージする「軽症」とは異なるかもしれません。
- 多くが「軽症」あるいは「無症状」のまま自然に軽快しますが、急速に病状が進行することもあります。特に重症化リスクのある方は注意が必要です。